



【 精神障害者家族会全国組織結成60周年記念大会に参加して 】

3月12日、精神障害者家族会全国組織結成60周年記念大会が四谷で開かれ、オンライン参加しました。1960年代半ばに茨城県立友部病院(現こころの医療センター)を舞台に制作されたドキュメンタリー映画「人間の記録 分裂病に抗して」の上映や、なでしこメンタルクリニック白石弘巳院長のご講演「精神医学、精神科医療と家族会の60年～その先にみえているもの～」、そして「家族ケアからの開放を目指して」をテーマにした、当事者、家族、医療、地域福祉、法制度など様々な立場の方が一堂に会したシンポジウムがあり、精神障害者や家族への支援の歴史は身体障害や知的障害と比べて遅くに始まった事、その進展には家族が力を合わせて働きかけたことの歴史があったことを実感する機会になりました。

全国組織の結成には友部病院家族会の尽力があったことで、茨城県精神保健福祉会連合会(県連)の弓野会長がビデオメッセージを寄せ、ご自身は東日本大震災があった2011年、折しも精神科受診の急増や「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病」に精神疾患を加えて、「5大疾病」と称されるようになったころ、こころの健康基本法の制定を目指す運動に参加したことを紹介し、青空の下で街頭署名活動をしながら全国の家族の皆さんとつながっていること、そして家族会、連合会があって運動がひとつになったと感じたことを話し、県連も60周年を迎えて、小中学校向けのデジタルリーフレット作成の要望が成り、これを教材に母校で5～6年生の児童・保護者と勉強会を開いたことを紹介し、支援者への感謝を述べました。

なお、県連は60周年を記念し、当事者・家族のそれぞれの思いをまとめた記念誌「もうひとつの春」を会員・支援者の賛助のもと発行され、当会からの投稿も掲載していただきました。

当会は、2003年6月に有志が話し合い、保健所管内の「龍ヶ崎地方精神障害者後援会」にピアかたつむりと通称する支部を結成し、2007年5月後援会が解散し龍ヶ崎地方家族会として活動開始しました。

私は、精神疾患の症状による社会生活の困難さは外からは見えにくく、本人の生きづらさが理解され難いところがあり、このことを訴える力を家族も持たないと前へ進まないこと、このためにも家族会やその集まりが存在する意義を改めて感じたところです。(竹之内 啓吾)

これまでの主な活動(2026年1-3月)

月日	項目	場所
1月12日	県南かれん	総合福祉センター
1月17日	新年会	市民活動センター
1月29日	ボランティア連絡協議会交流事業	しゃんしゃん龍
1月31日	役員会	市民活動センター
2月4日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
2月7日	定例会	市民活動センター
2月21日	婦人茶話会	総合福祉センター
2月21-22日	りゅうがさき市市民活動フェア	サブラスクエア
2月23日	県連 県南ブロック研修会	牛久市中央生涯学習センター
2月28日	役員会	市民活動センター
3月4日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
3月7日	龍ヶ崎市社会福祉大会	大昭ホール龍ヶ崎
3月7日	定例会	市民活動センター
3月9日	県南かれん	総合福祉センター
3月12日	家族会全国組織結成60周年記念大会	四谷区民ホール、ウェブ会議
3月14日	ゆっくら評議員会	ゆうあいワークイン
3月19日	県連 理事会	ウェブ会議
3月20日	ボランティア連絡協議会映画会	大昭ホール龍ヶ崎
3月21日	婦人茶話会	総合福祉センター
3月24日	龍ヶ崎市障害者自立支援協議会	総合福祉センター
3月28日	役員会	市民活動センター



【 県南ブロック研修会 報告 】

2月23日、県南ブロック研修会があり、家族会会員はじめ、地域の関心がありご支援いただく方々がご参加のもと、先進県のひとつの愛知県にお住いの、みんなねっと医療費助成推進プロジェクト座長の木全義治様から「医療費助成の進め方～先進事例から学ぶ～」と題して、各地の県・市町村での家族・家族会の働きかけの経緯の熱いお話があり、現在も続いている事や私たち家族会の役割は何かを学ぶ得難い機会になりました。

2013年4月施行された障害者総合支援法により、精神障害者は身体障害者や知的障害者等と同様に基本的人権を尊重し、その尊厳が保たれなければならないことが明記され、市町村は限られた資源を福祉サービスに有効に充てることができるようになったものの、茨城県ではマル福制度に含まれる重度心身障害者医療費助成制度を見ると、特に精神障害者向けの助成は、各地で働きかけをしてもなおなかなか進まない現状があります。

木全様はまず「3障害同等とは」という問題提起をされ、真の意味での同等の施策を求めることの大切さを説かれています。助成の基準を症状のみで判断できるかという問題があり、精神障害の方は職場へ行くのは難しくなくても、仕事に健常者と同様の負荷や長さで集中して携わるのは難しい特性があるものの、生活のしづらさや、多くの収入が得られない方が多いことになかなか理解が得られないことをあげ、これまでの先進事例では、理解が得られた県・市町村は助成が進み、必ずしも財政豊かな所から進んだものではないことを例証されました。

家族会の役割は何か。活動により、地域で共に暮らす方々に当事者が一人暮らしをすることには様々なハードルがあることなど理解してもらい勇気が生まれると共に、当事者が医療に結びつき、経済的支援を正しく公的に求める効果的な仕方を学び、行うこと、そのために同様に悩む全国の家族・家族会と情報交換を深め、家族と当事者の喜びを目指す存在であり続ける事も知れません。

運動は多面的に、というお話に対し会場から事例の質問がありました。これに対して各地域のおかれた実情に即して活動するのだから茨城県なりの進め方があるのではないかと、医療費助成のテーマを昨年福岡県で実施された時は、同県の政令指定都市で活動する2家族会から請願の先鞭を切るとのご紹介があり、ご講演資料にもあるように「まず、やれるところからやっていくことが重要」とのお話がありました。石川県では当事者による行政・議会への働きかけが効果を上げ、精神保健福祉手帳2級所持者への助成拡大が近々の知事選挙の公約に掲げられています。ご参加の社会福祉協議会の方からは「現場にいて精神の方からの相談が増えていると感じ、収入が少ないから最終的に生活保護になる方の多さに驚いている、助成制度の確たる成立を」とのご感想もあり、「正義は我が方にあり」とのご講演の意義を改めて感じたところです。(K・T)

【 映画「梅切らぬバカ」を見ました 】

3月20日、龍ヶ崎市社会福祉協議会ボランティア連絡協議会が主催するふれ愛映画会で、「梅切らぬバカ」を鑑賞しました。年をとってきた母親と自閉症の息子が地域コミュニティーの中で生きていく日常が描かれた作品です。

恐らく600人近くの方が大昭ホールに集い、招待券を握りしめて来られた障害児とスタッフさんの姿も見受けられ、障害者と福祉に関心がある大勢の市民の方々と共に、様々な気持ちで見て様々な受け止め方をして福祉を感じる良い機会が生まれたと思いました。

家族会も含め25団体が参加する協議会のメンバーさんのお手伝いのもと、上映作品の選定にも参加させてもらって、あらためて映画の力を感じたところです。(K・T)

【編集後記】 花の移ろいとともに、卒園・卒業を惜しみ入園・入学を待ちわびる親子の様子に春を感じます。家族会はこれからも地域に根付いたほっとする場でありたいと願っています。皆様からのご投稿、お待ちしております。(K・T)

これからの予定(4月-)

月 日	項 目	場 所
4月1日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
4月11日	婦人茶話会	総合福祉センター
4月18日	役員会	市民活動センター
4月25日	家族会 総会	市民活動センター

